

# 復興 ニッポン cha・cha・cha!

被災地の復興のために汗を流し、知恵を出している災害ボランティアの頑張りをお伝えする<支え合い、助け合い、協働>のための情報紙です。「みんなは、どんな活動しているの?」今すぐ知りたい、アイデアや取り組み。災害ボランティア最前線からお届けします。(※chaは「care」「help」「act」の頭文字)

発行：仙台市災害ボランティアセンター

## ◆災害ボランティア・スナップ◆

被災者の方を応援するため、1日でも早く普段通りの生活を取り戻していただくため、活動する災害ボランティア。活動の様子を、写真でお伝えします。

### 心を咲かそう、仙台チューリップ大作戦 ～思い出を家族に戻したい!～



若林区の沿岸地域は津波の影響で大きな被害が出ています。ここ農業園芸センター（若林区荒井）も津波の被害に遭い、トラクター等の農機や休憩室の畳などが海水に浸かってしまったそうです。

このような中にあっても園内では津波被害に負けじとチューリップがきれいに花を咲かせています。

そんな姿にあやかるうと、5月5日（木）、農業園芸センターをボランティアの手によって清掃して、津波被災者の思い出の品々（写真、記念品など）を展示する場所づくりのための『チューリップ大作戦』なるプ

ロジェクトがスタートしました。

この日は風が強く、マスクの中まで砂が入りこむような過酷な状況でしたが、津波に負けなかったチューリップのように、ボランティアさんも元気に活動してくれました。

チューリップの花言葉は「思いやり」



# 震災ドキュメント・インタビュー

東日本大震災で地域コミュニティではどのような避難や被災後の活動をしたのでしょうか。以前から地域コミュニティづくりに熱心に取り組む2つの地域にインタビュー。今回はその第2回目です。

**地域の学生が進んで災害ボランティア活動を実践。**

## 自分たちの町は、自分たちで守る！片平地区連合町内会会長 今野均さん

「普段から住民同士でコミュニケーションをとり合うことが、災害時の大きな力になる」という、片平地区連合町内会長であり、花壇大手町町内会長でもある今野 均さん。町内会とネットワークで乗り越えた、その背景を追います。

### 「3.11」からの1カ月ドキュメント ——片平地区連合町内会は、こう動いた——

3.11	14:46 15:00 17:00	震災発生 集会所に役員8名が集合 ・安否確認、被害状況確認、被災地撮影 被災者を受け入れ 片平丁小約1500名（夕食対応：学校職員） 片平市民センター約300名（夕食対応：センター職員・町内会有志） 集会所8名 そのほか地域で、レストラン協力により炊き出し
3.12	10:00 10:40 11:00 14:00 16:00 21:00 23:00	災害対策委員会を発足 （町内会役員、片平丁小校長、片平市民センター長の計11名） ・被害状況の確認、避難所状況の確認、今後の対策検討 片平丁小の電気復旧 柳町・北目町の電気復旧 第2回災害対策委員会 （片平丁小の教頭、PTA会長、仙台市職員を加え計14名） 地域3店舗の協力により炊き出し 花壇・大手町地区の電気復旧 片平地区の電気復旧 配食 朝／片平丁小（学校職員）、市民センター（職員・町内会有志） 昼／ 夕／ 〃 約600名（〃）、 〃 約200名（職員・地域代表）
3.13	10:00	第3回災害対策委員会 計13名 ・避難所体制の見直し ・行政への依頼（がれきの処理方法、交通混雑の解消） 午後 地域へ昨夜の炊き出しを提供 配食 朝／片平小（学校職員・地域代表）、市民センター（職員・地域代表） 昼／ （学校職員）、 夕／ 〃 約600名（学校職員・地域代表）、 〃 約60名（ 〃 ）
3.14	10:00 13:00	第4回災害対策委員会 計15名 ・避難所体制の再度見直し（要介護者を地域内の民間施設へ受け入れ要請。5名までOKとなり、結果的に1名8日間受け入れ） ・避難所名簿の作成と地域別相談会を決定 ・家庭ごみの保管を地域内に徹底 ・行政への依頼（食糧供給の見通し、ボラセン開設情報、原発情報） 各町内の一時避難所を閉鎖、片平丁小と市民センターに集約 配食 朝／片平丁小（学校職員・地域代表）、市民センター（職員・地域代表） 昼／ 夕／ 〃 172名（ 〃 ）、 〃 35名（ 〃 ）
3.15	10:00	第5回災害対策委員会 （NPO法人都市デザインワークスを加え計15名） ・避難者名簿にもとづき町内会ごとの相談体制を確立 ・町内会ごとの説明会資料を作成 ・避難所に来る食事日当ての人に対する自粛チラシを作成 ・避難者減により、市民センターへ避難所集約を提案 午後 山形県朝日町による炊き出し（おにぎり750個、豚汁ほか） 民生委員19名が在宅被災者に届ける 配食 朝／片平丁小（学校職員・地域代表）、市民センター（職員・地域代表） 昼／ 夕／ 〃 125名（ 〃 ）、 〃 30名（ 〃 ）

3.16	9:00 10:30 11:15	片平丁小体育館の大掃除、避難者を地域別に区分 地域ごとに避難者相談会 第6回災害対策委員会 計11名 ・市民センターへの避難所集約は、市よりNG。別途検討 ・各地の被災状況調査の実施決定 配食 朝/片平丁小(学校職員・地域代表)、市民センター(職員・地域代表) 昼/ " " 夕/ " 90名( " )、 " 28名( " )
3.17	10:00 15:00 16:00	第7回災害対策委員会 計13名 精神科医が避難所の被災者を見まわり (町内会役員、片平丁小校長、市民センター長、市立病院医師など計7名) ボランティア依頼先打ち合わせ (町内会役員、片平丁小校長、NPO法人ワンファミリー仙台など計5名) 配食 朝/片平丁小(学校職員・地域代表)、市民センター(職員・地域代表) 昼/ " " 夕/ " 65名( " )、 " 25名( " )
3.18	10:00	第8回災害対策委員会 計12名 ・個別震災状況調査を決定(調査員:町内会役員と民生委員の2名体制) ・ボランティア依頼先をNPO法人ワンファミリー仙台に決定 ・配食担当を学校職員から町内会の食料・物資班に移行 ・食料・物資班が配食表を作成 配食 朝/片平丁小(学校職員・地域代表)、市民センター(職員・地域代表) 昼/ " (地域代表)、 " 夕/ " 58名( " )、 " 4名( " )
3.19	10:00	第9回災害対策委員会(介護施設所長、仙台市職員も加わり計17名) ・学生ボラ3/22より受け入れ決定(地域内の希望者12名、NPO法人7名) 午後 片平小の教室避難所を体育館に集約 食事対応 朝/片平丁小(地域代表)、市民センター(職員・地域代表) 昼/ " " 夕/ " 40名( " )、 " 4名( " )
3.20	10:00	第10回災害対策委員会 計15名 ・避難者および在宅要援護者への配食ルートを検討 【※仙台市青葉区災害ボランティアセンター開設】 配食 朝/片平丁小(地域代表)、市民センター(職員・地域代表) 昼/ " " 夕/ " 40名( " )、 " 4名( " )
3.22	9:30 10:00	片平丁小体育館を大掃除、避難者を体育館から家庭教室に移動 第11回災害対策委員会 計12名 ・「片平地区の個別震災状況調査」にもとづき片づけ表作成(学生ボラ) ・PTAによる「被災地への物資支援」をバックアップ、町内会でも展開 ・被災地への義援金受付を決定 【※東北自動車道が全線開通】 午後 仙台市と打ち合わせ(市民センターの指定避難所化を再度依頼。指定の方向へ) 配食 朝/片平丁小(地域代表・学生ボラ)、市民センター(職員・地域代表) 昼/ " " 夕/ " 8名( " )、 " 9名( " )
3.24		※片平丁小の卒業式・修了式
3.26	10:00	第12回災害対策委員会 計11名 ・避難所の3月末閉鎖決定 ・地域内の屋内片づけを急ぐ
3.29		学生ボランティアによる屋内片づけ終了
3.31		地域内の避難所3カ所を閉鎖 ・地域住民は帰宅 ・県外者は仙台市青葉体育館へ
4.2	10:00	第13回災害対策委員会 計12名 ・在宅要援護者への配食と買物手伝いは町内会対応 ・被災地への義援金受付を連合町内会として決定
4.9	10:00	第14回災害対策委員会 計11名 ・片平学区民大運動会の延期決定 ・片平地区夏祭りの中止決定 ・各地域の祭りは実施予定 ・被災地への義援金受付を決定 ・当委員会の定例会を終了 ・以後は各町内会で見守り活動
4.16		花壇大手町町内会「自主防災マニュアル」反省会

## やるべきことは見えていました。 あの日、震災が起きるまでは。

### ●片平地区連合町内会 DATA

人口 9,446名

年代 20代前半の学生、および20～60代前半の働き盛り世代が多く、全体の約7割（平成22年5月1日現在）

被害状況 人身事故／3月11日、0件。3月14日、買物帰りに路上で転んで骨折1名。4月7日、余震のため家の中で転び骨折1名

停電／約1日

都市ガス供給停止／約1カ月

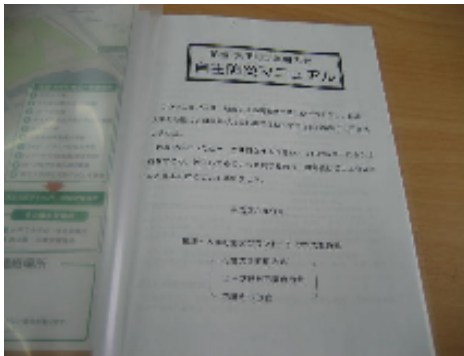
断水／霊屋下地域で約1日

がけ崩れ、倒壊家屋なし被害家屋多数、道路ひび割れ多数

（写真）片平地区連合町内会のひとつ、花壇大手町町内会。遊休地の花壇も手入れされています。

### 自主防災マニュアルで始動！

地震の10分後には、花壇大手町町内会の役員8人は集会所に集まっていました。震度7まで耐えられる大手町の集会所に集まり、安否確認や被害状況の確認など、やるべきことは「自主防災マニュアル」で決まっていたんです。



花壇大手町町内会では、「自主防災マニュアル」を2010年に作成



避難場所や危険個所を記した「防災マップ」も3年ごとに作り替え全戸配布



震災当日の夕方には、町内会役員が近隣の被害状況を撮影

その時点ですでに電話が通じなくなっていたので、安否確認や被害確認などの情報交換は、町内会で準備していたトランシーバーを使用しました。

本来は震度5以上の場合、町内会役員24人が集まることになっていたんです。それが、8人しか集まらなかった。自分の家の片づけに追われていたんです。一時避難の場所も、東北大のグラウンドなど班毎に設定していましたが、被災者は一気に片平丁小学校に集まってしまった。



結局、マニュアルは機能しなかったんです。

片平地区連合町内会の方は2010年8月に「片平地区まちづくり会」を立ち上げ、これから自主防災マニュアルを作成しようというところでした。関係各所とのつながりはあったので、震災当日の夕方には、8つの町内会と片平丁小学校の校長、片平市民センター館長に連絡し、翌朝集まることを決めました。

### 震災翌日には「片平地区災害対策委員会」

ひと晩で「片平地区災害対策委員会」の構想を練り、翌朝10時には片平丁小学校の校長室で、第1回目を開きました。集まったのは、連合地区町内会の役員9人と、校長、市民センター長など11人です。役割分担や避難者への食事、今後の対策などを打ち合わせました。

委員会をはじめて40分くらい経ったとき、小学校の電気が復旧しました。それで各自地域に戻って確認することにして解散したんです。その後また午後2時から、第2回委員会を開きました。そのときは、教頭とPTA会長、避難所対応をしていた仙台市職員2名も加わって会合。片平丁小と市民センターの配食担当を、町内会ごとに担当する支援体制を決めました。

### 都市型避難所の戸惑い

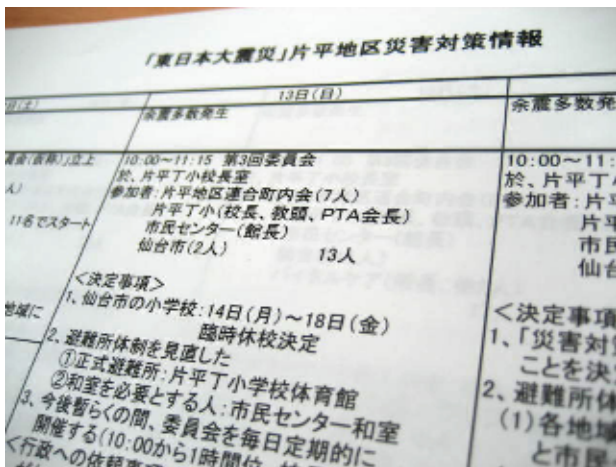
予想していなかったことは、震災当日の夕方から起きていました。避難所に押し寄せたのは、地域の人だけではありませんでした。新幹線が止まって帰れなくなった人たちも来て、片平丁小学校には約1500人、市民センターに約300人を受け入れました。

震災当日の夕食から、小学校では学校職員が、市民センターではセンター職員と町内会役員が配食を行いました。翌日には食料の蓄えがなくなった。できれば震災から3、4日目には、ボランティアが欲しかったんです。

さらに予期していなかったのが、東南アジアの留学生です。数日経って、家に戻れる状況になっても戻らない。逆に、片平の避難所の待遇が良いと広まったらしく、太白区の留学生までワッと来た。帰るようにとも言えないし、本当に助けなければいけない人たちではないし、これには弱

りました。どう対応しようかと考え、体育館の避難者を地区別に分けることにしたんです。分けた時点で、中国やマレーシアから国外退避の命令が来て、悩みは解消されたわけですが。

災害が起きた時には、宮城野区の福住町と助け合う協定（※1）を結んでいました。ですが、今回のように広範囲になると、とてもできない。それぞれでやりましょう、となりました。少し落ち着いたころ、福住町と連絡を取り合いましたが、まったく状況が違っていました。こちらは新幹線のお客さんや外国人留学生もいる都市型で、小学校や市民センターの避難所は3月31日まで開設していました。ですが、福住町は地元中心の地域型だったため早い時点で避難所を閉鎖し、より被害の甚大だった沿岸部の支援を行



っていました。(写真) 震災3日目には「片平地区災害対策情報」を作成。災害対策委員会の動き、被害状況、ライフライン状況、避難所状況などを今野町内会長が1枚にまとめ、災害対策委員会の打ち合わせにも活用した。

避難所の配食のほか、町内でも炊き出しを行いました。震災当日の夕方と2日目の夕方、霊屋下ではレストランパリンカに協力してもらい、町内会のガスコンロを使ってカレーを提供。花壇大手町では2日目の夕方、かつどん家さんから停電で解凍した肉の提供があり、森の香本舗の協力も得て炊き出し。夕暮れからは、照明として町内会の発電機と電球を使いました。

告知は、「炊き出し4時から」と書いた紙です。炊き出しの準備をしながら「次の人のために米を持ってきて」と呼びかけました。350人くらい集まった中には、30キロの米を持ってきた人もいます。それは年配の人も若い夫婦も、新・旧住民の関係なしに。

(写真) 炊き出しは、手書きで告知。



## 地域の若者ボランティア

震災から2日目には、地域の高校生が「何か手伝うことはないですか」と来てくれたんです。その時点では、まだ頼むことがわからず待ってもらったんだけど、1人リーダーになってもらって高校生は10人、中学生が2人。NPO法人のワンファミリー仙台の大学生ボランティア7人とあわせて計19人で、配食や家屋の片づけをしてもらいました。

そのうち、顔を知っていたのは2人だけです。1人は、知り合いのお孫さん。2006年にタワーマンションが町内に建つとき、倒壊して町内会に損害を与えた場合、建築主に補償してもらおう運動を一緒に行った委員の孫なんです。お祖父さんが行って来いと言ったのか、自分で来ようと思ったのか、それはわからないけど。花壇大手町町内会のお祭りは、宵祭りも町内会で出店しています。地域コミュニティへの取り組みは行ってきました。

## 「まちなか農園」で培ったネットワーク

住民コミュニケーションに役立てている「まちなか農園」も、その一つです。道路用地として遊休地になっている1000坪を使った農園は、収穫が第一義ではなく、コミュニティの活性化を目的としています。料理教室を開いたり、育てた花を使って染物教室を行ったり、収穫祭、もちつき大会と、農園に興味がない人でも関われるイベントを行っているんです。

そこでは、山形県朝日町の産直市も行っています。2008年に朝日町が特産品をアピールしようと仙台市内で食事会を開いたのに参加したのがきっかけで、産直市を月2回行っています。

その朝日町が3月15日に、炊き出しをしてくれたんです。夜ごはん間に合うように。町を挙げておにぎり750個をつくり、豚汁や玉こん、つけものといった炊き出しに、りんご6箱も避難所に届けられました。避難所でも夕食を用意していたので、二重になったものは民生委員19人を集めて、在宅の高齢者に配りました。

町と町のつながりを生み、町内の多世代間交流のきざしを感じさせていた普段からのコミュニケーションが、災害時の大きな力になりました。



【コラム】今野町内会長に聞いた

「これは、困った！」

「これは、うれしかった！」

「これは困った！」

● 予期せぬ避難者

防災マニュアルも食料の備蓄も、想定していたのは地区住民のことだけ。ところが実際には、新幹線で帰れなくなったお客さんや外国人留学生も含め、震災当日の夕方には片平丁小学校に1000人が集まっていました。地区内のことだけではなかったんです。



● 市民センターの避難所化が難航

避難所に指定されているのは、片平丁小学校です。ですが、卒業式のために体育館を空けたかった。避難者が減ったとき、指定避難所を片平市民センターに移したいと思い、センターも受け入れOKとなったものの、なかなかすすむとは進まなかった。後になって、指定の方向に動きはじめましたが。

● 災害ゴミ置き場

町内の災害ゴミは、4トン車に2台分ありました。処理費用は、町内会が負担しています。学生ボランティアがリヤカーで集めたのですが、その置き場に困りました。地下鉄工事の資材置き場になっている西公園脇に仮置きさせてほしいと市にお願いしたのですが、公園だからだめ。他でも認めざるを得なくなるから、と。そこで民間の駐車場にお願いしました。好意で費用なしになりはしたけれど。

「これは、うれしかった！」

● 地域の中・高生ボランティア

青葉区ボラセンが立ち上がったのは、3月20日。せめて3月15、16日ごろには立ち上がってもらわないと、本当の意味での公助になりきれいていません。助けられたのは、地域の子どもたちやNPOの大学生たち。高校の違う友達同士10人と、中学生が2人、町内会の集会所に「何かやることないですか」と来てくれたんです。

● 多くの方々の協力

コンビニなどが早々と閉店するなかで、炊き出しに協力してくださった多くの方々がいます。食堂、レストラン、和菓子などを差し入れてくださったお店、避難所での感染症防止にとマスク・うがい薬・歯ブラシなどをご提供いただいた歯科医院など、地域内の多くの方々の協力がありました。

さらに、災害ゴミ運搬用のトラックを貸してくださったのは、「まちなか農園」を通じて知り合った南中山地区で造園業を営む社長さん。協力してくださった方は、地域外まで及びます。

● 山形の朝日町からの炊き出し

「まちなか農園」近くで産直市を行う山形県朝日町からも、ワンボックスカーに食材を積んで3月15日に来てくれました。こちらに来てからつくるとかと思ったら、できあがったおにぎりを750個も。町を挙げて、つくってくれたらしいです。

● 炊き出し1食に対して、米1袋(30キロ)の差し入れ

地域店の協力も得て、花壇大手町町内会では2日間炊き出しを行いました。準備をしながら「次の人のために米を持ってきて」と呼びかけると、1~5合くらいをビニール袋に入れて持ってきてくれました。なかには、30キロの袋を抱えてきた人が、6人も。新・旧住民の別はありません。タワーマンション建築時に建築主とは闘いましたが、そこに住む人は仲間。174世帯が町内会に入っています。住んでいる人とは、仲良くやりたいですからね。

## 編集後記

あの震災直後、自分のことに追われる人が多いなか、地域の被害状況を調べ、撮影し、避難所の食事の手配までしていた町内会の方々がおられたことを、取材を通して知りました。この状況をなんとかしなければという思い、気持ちを同じくして動かれた方々。そこに、いまの暮らしにそったつながり「現代の結(ゆい)」を見た気がします。この動きを頭の片隅に入れておくだけで、もしもの備えになるのではと、詳しく紹介することにしました。ご多用のなか取材にご協力いただいた今野均町内会長、ありがとうございます。(大谷美紀)

発行：仙台市災害ボランティアセンター 広報班 黒田

TEL022-262-7294 <http://www.ssvc.ne.jp/> 当紙がWEBで読めます！

編集：広報ボランティアチーム 遠藤、大谷、木村、佐藤、茂木、山田、佐々木

連絡先：仙台市災害ボランティアセンター Eメール [sendai-vc@poppy.ocn.ne.jp](mailto:sendai-vc@poppy.ocn.ne.jp)

